

将来へ伝えたい教訓

南相馬市立原町第一中学校 2年 鈴木 真日瑠

震災当時、私はまだ一歳半で歩き始めたばかりだった。

震災後はすぐに街を離れ、二年間の避難生活を経て、生まれ

れた街に帰ってきた。生まれ育ったこの街は、他の街とは

違う。復興に向けて整備されてはいるが、いまでも震災の爪

痕は残っている。それは形として目で見える物だけではなく、

人の心にも刻まれ残っている。

私は、「東日本大震災」や「原子力発電の事故」を学んだ。

そして、学んだことを発信する活動を行っている。震災を

経験した人の思い、いまの福島を伝えることで、これ

から起こるかもしれない「災害」に対して、知識を増やし、

備えてほしいと強く願っている。

「福島に住む私たちは、当たり前毎日が、明日も来るこ

とではないと知っている。」「福島に住む私たちは、故郷

がいつも帰れる場所じゃないことを知っている。」、忘れ

たい記憶も、忘れてはいけない記憶もすべて、「伝えてい

くべきこと。」

今を生きる私たちが、この想いを繋げるバトンを受け取り、

生かしていこう。

将来へ伝えたい教訓

喜多方市立塩川中学校 2年 菅井 優愛

今の福島にはまだまだ課題があります。12年経った今でも復興してない場所や、自分の地元に戻れない人が沢山います。農作物を作れなかったり、福島産の食べ物が売れない時もあったという話を聞きました。それを聞いた時、私は心が痛くなりました。何もしていない、被害を受けて今まで通り生活できなくて、大切な人もなくして辛い思いをしてるのにまた差別され、もっと辛い思いをしたのを知って欲しいと思いました。差別している人だけではなく、47都道府県が福島を応援してくれていることを忘れず、少しずつ福島県が元通りになることを日々願って生活し、被災地に行けるような活動や体験があれば、その場所に行き、震災の怖さについて全国民に知って欲しいです。

頑張ろう！福島！

将来へ伝えたい教訓

福島県立ふたば未来学園中学校 3年 志賀 陽向

私が将来へ伝えたい教訓は、人との繋がりと人との輪を大切にすることです。私は震災当時2歳でした。そのため断片的な記憶しかありませんが、避難先の人たちが優しく受け入れてくれたことは覚えています。子供の頃は理解できない状況だったけれど、成長するにつれ受け入れてくれた人たちがどれだけ温かく、神様のような存在かを実感しました。

私はこの経験を通して、人との繋がりによって救われる命があると改めて学びました。又、東日本大震災のようなことは起こって欲しくないけれど、もし起こってしまったら私たちを受け入れてくれた人たちのように優しく、温かく手をさしのばすことができればいいなと思います。

将来へ伝えたい教訓

白河市立白河第二中学校 1年 高木 小和

2011年3月11日午後2時46分、福島県。あたり前だった生活が、一瞬にして崩壊しました。

朝、元気よく学校に行った子供たちはもう、「ただいま」が言えない。「おかえり」を言われることがどれだけ幸せなのか、あなたはそれを知っていますか。

十数年経った今でも、自分の家に帰れていない人がたくさんいる。あなたは毎日、「行ってきます」「ただいま」を言っていますか。「ありがとう」を、大切な人へ伝えてありますか。これらはあなたの中ではあたり前かもしれませんが、でもそれがいつか、できなくなる日が来るかもしれません。私にも、誰にも予測はできません。ただ、その日が来るまえに、大切な人たちへ、一言、感謝を伝えて下さい。

将来へ伝えたい教訓

白河市立白河第二中学校 2年 村田 優和

今から12年前、歴史に名を刻むような出来事が起こった。それは、東日本大震災。当時2歳だった私にはあの時の記憶がない。誰もが予想していなかったこの日は、人々にとっては忘れられない日となってしまった。普段何気なく過ごしていた日常から、突如として非日常の状況へと変わり、大切な人の命を奪うまでに至った。ふとした時に思い出すと、まるで昨日のこのようにその時の情景が浮かび上がってくる。東日本大震災を通して、自然災害への恐ろしさや災害に備えることの大切さに気づくことができた。人々が変わったきっかけとなったこの日。今となっても、想いはずっと変わらない。私たちはこの日を、次の世代へと変わらぬ思いと共に継いでいく。忘れたいあの日の想いを胸に。